

2018 なつやすみおすすめ本 3・4年生

『魔女バジルと魔法のつえ』 913モ

茂市久美子/作 よしざわけいこ/絵 講談社

七魔が山に住むバジルは、見習い魔女。一人前の魔女になるには、大魔女の弟子になって、修行を積まなければいけません。けれど、弟子入り試験の日に、バジルは寝坊してしまい、名前を聞いたこともないマジヨラムというへんくつな大魔女のもとで修業をすることになりました。

困難にも決して負けない、がんばりやのバジルの成長が描かれています。続きの物語もあります。そちらも読んでみてください。

『ぺちゃんこスタンレー』 933ブ

ジェフ・ブラウン/文 トミー・ウングラー/絵 さくまゆみこ/訳
あすなろ書房

ある朝、目がさめるとスタンレーはぺちゃんこになっていました。はじめはびっくりしましたが、なれてくると楽しくなってきました。でもだんだんと、まわりのみんながからかうようになってきて、スタンレーはもうぺちゃんこはイヤになってしまいます。

スタンレーは元にもどることができるのでしょうか？

『ノラネコの研究』 2-489イ

伊沢雅子/文 平出衛/絵 福音館書店

町で見かけるノラネコたちが、どんな一日を過ごしているのか知っていますか。この本は、ノラネコの後をこっそりついて行って、ネコが1日何をしているのか調べた本です。

自由きままに過ごしているように見えるノラネコにも、実はいろいろなネコ社会のルールがあるようです。

『お金があればしあわせなの？』 159才

大野正人/作 赤澤英子/絵 汐文社

あるところに売れないお笑い芸人がいました。お金はありませんでしたが、友達や家族に囲まれて楽しく暮らしていました。ある日、お金の神さまから大金をすきなだけあげると言われて…。

この本を読んでお金の使い方について、もう一度考えてみませんか。



『びりっかすの神さま』 913才

岡田淳/作・絵 偕成社

あなたは、クラスで一番になったことがありますか。一番になるのはかんたんなことではありません。しかし、びりになるのは、その気さえあればだれでもなれます。びりっかすの神さまのおかげで、子どもたちは競争や勝ち負けの意味を考えはじめます。

『赤いカブトムシ』 913ナ

那須正幹/作 見山博/絵 いたやさとし/絵 日本標準

茂は昆虫採集が趣味で、近くの公園に昆虫採集をしにでかけた。そして、クヌギの根元で茂が捕まえてきたのは、まっかなカブトムシだった。お兄ちゃんはそのカブトムシを見て、これは新種かもしれないと言って…！？

くわしいイラストで昆虫採集のやり方や、ムシのこともわかる1冊。

『みどりのゆび』 953ド

モーリス・ドリユオン/作 安東次男/訳 岩波書店

少年・チトは裕福な家で、やさしくてきれいな両親のもとで暮らしていました。チトには秘密がありました、ふれたものを植物に変える“みどりのゆび”をもっていたのです。チトは貧しい人の街、刑務所、病院、動物園と次々に花であふれさせます。同時に、人々は希望をもち、困難に立ちむかう力を持ちはじめます。